

## 会議の概要（議事録）

会議の名称	墨田区消防団運営委員会（第1回）		
開催日時	平成31年3月15日（金）午前10時00分から11時10分まで		
開催場所	墨田区役所（7階） 庁議室		
出席者数	27人 【委員】14人 委員長（区長） 学識経験者3人、区議会議員6人 本所消防署長、向島消防署長 本所消防団長、向島消防団長 【オブザーバー】副区長 【事務局】13人 都市計画部危機管理担当部長、防災課長、安全支援課長、防災係職員（4人） 本所消防署警防課長、向島消防署警防課長、消防署職員（4人）		
会議の公開 （傍聴）	公開（傍聴できる）	傍聴者数	0人
議題	特別区消防団の組織力を強化するための方策はいかにあるべきか		
配布資料	委員会資料 墨田区消防団運営委員会資料（第1回）		
会議概要	1 開会  2 委員長挨拶  3 特別区消防団運営委員会の答申を踏まえた対応方針について 委員会資料1に沿って説明  4 特別区消防団運営委員会への諮問事項について 委員会資料2に沿って説明  5 主な意見・質問 【委員】 機能別団員は、時代の流れの中で導入していかなければならないと思っています。 事例を調べたところ、ある地域では郵便局が集配業務を行っているので、どこに誰が いるかということを知っています。それは機能別団員として非常に有効な ことかと思いました。あとヤクルトレディなど区内にもさまざまな機能を持った方が いるので、提携していくことが必要だと思います。 他に、大きな事業所もあり、そういったところは、自衛消防組織を持っているので、 事業所の中だけでなく、外に対しても働き掛けていくことも大事なことだと思います。 あと、ちょっと酷なことかもしれませんが、今は年配の方が活躍する時代ですので、 消防団の定年を引き上げることを検討していくことも大事なのかと思います。		

**【委員長】**

具体的なターゲット、提案を頂戴しました。他に何かございますか。

**【委員】**

オリパラに向けては、頭数ではなく機能できるかが課題になってくると思います。新たな団員を確保する視点と、今いる現有勢力をどう活用できるか、そこにかかっているのではないかと私は思っています。

前回の答申を踏まえた対応方針の報告を受けて、ある部分では安心な面がありました。それは何かというと、消防団員の生命・安全に関すること、オリパラは酷暑の中行われるので、ポロシャツというのは良かったと思います。装備に関しては、さらに様々な部署に働きかけをし、安全性を確保していただきたい。

資料2に関しましては、墨田区ならではの人情が根付いた地域であり、そういったところに働きかける必要があるのではないかと。厳密に言うと、商店街などにも呼びかけするなどの措置もあるのではないかと。

いずれにしろ、私は、両団長の力量の元でしっかりと確保できると信じております。

**【委員長】**

機能団員について、お答えいただければと思います。

**【事務局】**

本所消防団は、基本団員のみです。数だけという話では、年に2、3回しか活動していない方は、退団させていただいております。

**【事務局】**

居住地団員と勤務地の団員がおり、向島には会社の中で自衛消防組織をやっている方で消防団員として活躍されている方がいることを、ご紹介させていただきます。

**【委員】**

年に2回くらいしか活動していない団員は、どうして参加しなくなってしまったのか、来なくなってしまった理由は把握しているのですか。

**【事務局】**

消防団活動は、1年間を通して訓練、災害活動、行事などがあり、年に数回の活動だけでは、団の中でうまくやっていけなくなってしまいます。

そういった方も、機能別団員であれば、それを理由に融和協調できるかと思います。

**【委員長】**

今のご質問への回答として分かりやすい今後の展開だったと思います。

他にいかがですか。

**【委員】**

私も消防団員ですが、組織の中に入って団員になると、例えば、月初めの定例会などの縛りがあると、そのためにできない方がいると思います。

日本人の優しい心を持った方たちは、助けようという精神はあるはずなので、まずは機能別団員、フルタイムに対してパートタイムというか、徐々に馴染んでから基本団員になってもらうとか、階段を作ってあげる必要があると思います。

たまに行く団員は、すでに出来上がった団員達の輪に入りにくいところもあり、そこは分団長なり団員達の配慮が必要だと思えます。

区内の高校生に働きかけ、人を助けることの延長線上に、ボランティア活動、消防団員というものがあるのかなと思います。

**【事務局】**

委員のおっしゃった高校生については、規定上18歳以上となっていますので、4月生まれで1年間の活動期間となります。その後、墨田区外の大学に行かれる方が多いのが現状だと思います。ただ、声掛けについては、いろんなメリットがあると高校にはさせていただいています。

**【委員】**

やっぱり根底に流れるのは個人的な付き合いであり、いいところでもあり、意識改革が必要な面でもあると思います。機能別というのがよく伝わっていないので、区のお知らせであるとかそういったものにもしっかりと明記して、あなたも消防団としての役割がありますよと、そういった誘い水というか行政がそういうことを考えていく必要があると思います。消防団員の数値目標を明確に、それにみんなで区民も、行政も、議会も1つのテーマを追っていくという、そういう作業が必要だと思います。これは、オリパラがあるなしにかかわらず、大きな課題なのです。とりわけ墨田区は災害に非常に脆弱であると言われている地域です。もっと危機感を持った意識改革を含めた地域力の向上、その中に消防団員の加入促進の数値目標を入れ、毎年追っていくということも私は必要だと思います。

**【副区長】**

区では、地域力育成支援計画をまとめさせていただいておりますが、地域力を活かすということが、行政政策の、実はあらゆる分野に染み込んでいかなければならない。その中の1つに消防団員のことを評価して出していくというのが、それが地域力の1つというふうに改めて今感じております。

**【委員】**

昨年末に女性消防団員に2つのアンケートがあったのですが、その内容を消防署や消防団で把握されていますか。

**【事務局】**

服装の件ですね。先ほど答申であったポロシャツがそうです。

**【委員】**

服装の件で、女性団員でよく話をするのですが、型が滅茶苦茶に古いと感じます。ウエストが細かったり、肩パッドが大きかったり、もうちょっと見た目からもちちゃんとしてもらうとイメージが変わってくるのかなと、女性団員の中で話があがっていたので、この場を借りてお話しをさせていただきました。

**【事務局】**

全くその通りです。日本消防協会を中心として議論し、道筋を作るのが大事なかなと思います。

**【委員】**

あともう一つ、先ほど語学という話がありましたけど、結婚して日本に住んでいる外国人の方は基本的に英語が話せると思います。そういう方を率先して入団促進すれば良いのかなと。今から英語を教わってもなかなか身につかない。また、スマホで通訳の機能があるので、それを使えるようにすれば良いのかなと提案させていただきました。

す。

【委員】

補足をさせていただきます。今墨田区民になっている外国人が1万2千人いらっしゃる。その方の活用ということを含めて団員の話をしていただきたいと思います。それこそ、文化観光都市墨田ってことですから、外国人の方も愛着を持ってもらえるような街づくりの大きな勢力になると思います。

【事務局】

積極的に勧誘させていただきます、活躍していただければと思います。

【委員】

まだ外国人の方は消防団員に入っていないのですか。

【委員】

消防団はボランティア精神でやっているが、以前、外国人の方が入団した際、報酬に関する認識の違いもあり、自分から退団された方がいました。

【事務局】

すみません、あともう1つですね、住民登録されているということなのですが、日本国籍が要件となりますので、消防団に入団できないのです。

【委員】

帰化している人でないとだめだということですね。

【事務局】

そのとおりです。

【委員長】

それと先程、委員からPRしていきなさいとお話がありましたが、今回の諮問期間が来年の3月までとあり、オリパラまでというスケジュールを考えると、PRの実動と諮問への答申の関係をどうするか整理していく必要があります。

【事務局】

機能別団員を、墨田区に根差した部分に置いてのリストアップをさせていただきます。こういうのが墨田区で馴染むし、もちろん委員のご意見をすべて網羅したもの。あるいは、消防団からアンケートをもらって、なるべく多く網羅したものを次回に提案させていただきます。

【委員長】

他にご意見はありませんか。

【委員】

実は議員になるまで消防団という組織そのものを知らなかったという大変申し訳ない状況がございました。そういった意味では、地域の皆様のために活躍して下さっていることを知っている方と知らない方の差が非常にあるなと思っています。

成人式の壇上で、消防団員を募集していますよと口頭で実行委員の方がおっしゃられていて周知が必要だなと思ったのですが、口頭だけだと流れて行ってしまうので、一番良いのは、成人式で自分たちが大人の自覚になって我が地元墨田のためと思った時に、まだ学生さんだったりする方が入りやすいのかなと思います。そういった面では、口頭だけでなく書類などは配布しているのですか。

【事務局】

成人式のときは、口頭だけでなくリーフレット、チラシのようなものを配布させてもらっています。

**【委員】**

それと合わせて、区報でも少し前に一面に載ってすごく分かりやすい状況ではあったのですが、先ほどご説明があったとおり、消防団活動の年間スケジュール等が分からないと、具体的に年に何回位訓練があって、どういったことは最低限参加しなくてはいけないなど、具体的な内容を周知していただければと思います。それを墨田区のホームページで消防団員募集ということで、リンクを貼れるような形で、そこを開くと団員の具体的な活動の内容や団員の思いなど、団員の率直な声を載せていただいて区民がいつでも見られるようにしていただけると非常にいいのかなと思います。

**【事務局】**

PRについては消防署と我々と連携を取ってということと思っています。基本団員の負荷のような部分、実際入ってみてちょっと耐えられないなという部分はあると思っていますので、PRの工夫はさせていただきたいと思っています。

機能別団員については、この諮問を受けて答申を出して、特別区消防団としての機能別団員というのが改めて制度化されるということだと理解していますので、そういった部分でも基本団員と違う特色みたいなものを強調できるように、消防署と意見交換させていただきながらPRをさせていただきます。

**【事務局】**

現在、機能別団員というものが、どれが墨田区に合うのか先ほどおっしゃられた商店街などを含めて提案していければと思います。

**【委員】**

全然間に合わないと思います。500日切ったのですよね。そういう中でスピード感がない。オリパラの組織委員会自体も相対的に遅れていますよね。それと同じようにこの分野でももっとスピード感を持ってやらないと、私は今機能別ってことが十分区民の方に周知されていない現状であれば、大きな課題だと思います。もっと積極的に手を打つべきだと思います。そうでないと間に合わない、危機意識を持つべきだと余計なことかもしれませんが、そのように申し上げさせていただきました。

**【事務局】**

機能別団員という制度は、総務省消防庁で考えられています。今でもPRの工夫で、フルスペックでやるということではなくて、一部分で活躍できるというような方の募集行為は出来るという話のようです。スピード感ということは念頭に置かせていただきながら我々もPRに関与させていただきます。

**【委員長】**

今回の新たな諮問内容というところで、今日から来年の2月までこの議題を審議させていただきます。もう少しスピードを上げたほうがいいのではないかと思います。他に何かございますか。

**【委員】**

どういうPRの工夫の仕方が良いのか貴重なご意見ありがとうございました。区報の一面に大きくやってもらって消防庁のみんなもびっくりしているくらいで、墨田区はよく理解してくれて消防団のPRをしているなってことを言ってくれていることは

事実でございまして、決してやっていないということではなく、私たちの意見を行政は取り入れてくれているってことで大変嬉しく思っているところです。しかしそこがどうやって反応がくるかということは、もう一步PRをいかにするべきか、というところだと思えます。

実は、日本消防協会も東京消防庁についても、毎回の様に議論しています。現在全国では2,200の消防団があり、約90万人欠けていますけど、この人たちが如何に有事の際に、活動できるかということを経済省も東京消防庁も真剣に考えてもらっている。常備消防と言って、全国にいる消防職員だけでは、とても間に合わない。これは、私たち消防団員の力を借りなければならない。総務大臣も言っているし、都知事も言っている。その一環として、ポロシャツこれは都議会で盛んに陳情をもらってオリンピックに間に合うようにと言って、やっと予算を付けてくれて、こういう風にやってくれています。国も東京都も区も消防団に予算をしっかりと計上してくれていることは事実です。それだけ重要課題だと私たちは思っておりますので、あれもこれもというと、なかなかポロシャツを作るのも大変なのでありまして、できればこういう風に環境を整えていきたいと考えていることは事実です。

先日も東京消防庁で新入団員を呼んで、大学生など入団3年以内の方を呼んだら、ほぼ消防団に入る前は存在を知らなかったということでした。やはり今の世の中で、消防団の中での先輩後輩や、友達など人間関係ができる組織なんていうのはなかなかない。そういう回答も出ています。友達作り。消防団として。なぜやれたかということ、先輩のフォローが絡んでいる。先輩のフォローが足りないと、せっかく入ったのにみんな出て行ってしまったら何にもならない。

今の若い人たちは、先輩から指導を受けると、じゃあ辞めますと。ここが今の上に立つ人達の苦しさという、町会もそうだと思います。こういう活動のところは難しいと思っています。

まあいろいろPRのこともそうですけど、広報に入れていただいて引き続いてお願いをしたいと思います。

**【委員長】**

さまざまな皆様からの情報意見も含めた所感を頂戴しました。

**【委員】**

もう一点だけいいですか。全国のお店、それから東京のお店消防団を応援するお店というものを募集しまして、消防団員が入ったお店は10パーセント割引になります。そういうこともやっています。そこまでして団員をなんとか増やそうとしてやっているということは事実ですので、引き続いて応援をお願いします。

**【委員】**

実は管内に危険物を扱う事業所は減ってきてしまっていますが、それぞれが社員さんを持っているのですが、その社員さんが消防団員を出せているのかというところという状況ではないですね。さきほど委員がおっしゃったように、ちょっと縛りみたいものを怖がる部分が凄くありまして、その部分でいうとなかなか出しづらい。ただ大規模な災害があった際は、昼間ここに勤めている方たちも当然手伝う、然るべしというところと、今は小さな会社でもBCPをやっていきましょう。となっておりますから、BCPの中に地域に貢献するCSR的な部分を織り込みながらBCPを形成しなさい

という指導をして、社員を守る人間もいる、でも社の代表として、消防団員と連絡を取りあって対応をしていこうじゃないかというようなものを設置していってお手伝いできる。そっちの方がいいのではないのでしょうか。実際に都心部だと人口1,000人に対して、2人しか消防団員がいないはずで。2人の人間で1,000人をどうやって誘導するのか動かすのかって話で考えるとやはり少なすぎるのではないかと、やはり企業の中で50人いる会社であったら50人の中の2人くらいは地域の中に頑張っていって来いという話ができることにしたらどうなのかと。自分も会社をやっている人間としては、社のBCPの中では、最初に家族を守れ、次に地域を守れ、次に会社を守って取引をしましようという順番を指導していますけど、その地域の部分を是非BCPに織り込んでいくのはいかがでしょうか。

【委員長】

いいヒントですね。協力依頼をした上で大規模団員をなんとか1人2人、名簿と言ったらあれですけど、そういう仕組み作りみたいなものがあると良いですね。

【委員】

準団員みたいなことなのか、それくらいで抑えないとなかなか一步が踏み出しきらない可能性もありますので、その辺は踏み出しやすい形を作っていただければ良いと思います。

【委員長】

ありがとうございます。

【委員】

消防団の活動の意義と重要性がなかなか伝わっていないのかなと私は感じていて消防団の存在がそもそも知られていない。私は田舎から出てきたのですが、実は私の住んでいた田舎は、消防団が消火活動のメインでした。管轄が広くて、消防団がやらないと消防車来るまで15分くらいかかります。田舎では消防団が凄く目立って、普段の消火活動も消防団がやっています。でも東京は、東京消防庁がすぐ来て、消防職員がやって、その後に消防団がやるみたいな感じですけど、そういうことから消防団は何で必要なのかってところが、ちょっと見えにくいのではないかと考えています。必要性、重要性っていうのをもっとプッシュしていけばいいのかなと、私がこっちに来て感じたことです。

【委員長】

ありがとうございます。

【委員】

さきほど委員からもお話がありましたけど、ヤクルトレディとか郵便局だとか大きな事業所、社内だけでなく社外。例えば宅配便などの運送業だとかタクシー業者、参加企業と協力企業に対してもアプローチの仕方が違う。地元の町会の防災力、消防団と企業の連携がうまくいっているのかという段取りが違う。それぞれ独自で防災活動をしているが、果たしてそれが上手くいっているのか、それが消防団員の募集に影響がそういう意味では入っているのか、そっちに疑問を持ってしましてその辺のコミュニケーションですね、例えば協力企業に対しては、団員募集になっているが、団員募集に絞らず協力企業も募って、防災グッズの提供をするとか広げたいうえで、その企業の中の団員の方を少しお願いするというようなやり方も大事だと思う。ハードルは

高いと思うのですが、そんな気がします。

**【委員長】**

ありがとうございました。大変参考になるお話をずいぶん今日頂けました。他に意見があればどうでしょうか。

それでは、ただいま皆様から頂戴しましたご意見等を基にしまして、事務局に置いて答申案を作成させていただきますので、宜しくお願い致します。

今後の審議日程について事務局からご説明をお願いします。

**【事務局】**

今後の審議日程予定について委員会資料3に沿って説明

**【委員長】**

それでは、墨田区消防団運営委員会を閉会させていただきます。本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。

6 閉会

都市計画部危機管理担当防災課